

タイトル：地域と共にあゆむ雇用型大規模にら経営の確立

氏名(法人名)： 川 又 義 弘 氏

1 個人の概要

川又義弘氏は、真室川町野菜生産組合長として、地域の野菜生産の振興、新規栽培者の育成等に尽力され、地域の園芸振興に大きく貢献している。また、にら 1.7ha を栽培し稲作 3.25ha、繁殖和牛 2頭の経営を行い、特ににらでは、地域人材の 11 人を雇用した大規模にら栽培を確立され、地域のモデルとなっている。また、新規生産者の指導を長年行い、数多くの新規栽培者を育成している。

栽培技術では「堆肥マルチ」の技術を確立普及させ、真室川町のにら栽培の基本技術を確立している。

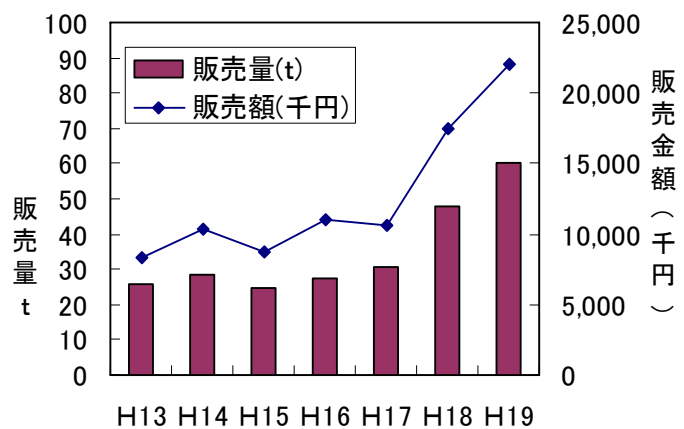


図1 川又氏のにら生産販売の推移

2 活動内容

(1) 雇用型大規模にら栽培

稲作依存度が高い最上地域で、昭和 57 年頃よりにら栽培に取り組み、徐々に栽培面積を拡大してきた。平成 5 年には、約 40 a まで拡大し、家族労働では限界がきていたが、家族で話し合い、地域で埋もれていた労働力（主に女性）を雇用し、雇用体系のにら栽培をはじめた。その後、徐々に栽培面積が拡大するとともに雇用者も増え、現在では従事日数 50 日以上の方を 11 名雇用し、大規模にら経営を確立している。このような雇用型の大規模にら経営は、最上管内でも少なく、個人の経営では有数の規模である。また、「堆肥マルチ」の技術を導入し、地域の基本技術として定着させている。

(2) 水稻種子生産の取り組み

真室川町種子生産組合に加入し、共同機械利用、共同作業を行い作業の効率化と生産コストの削減を図るとともに、良質な種子生産を行っている。また、県内唯一、低アミロース米「里のゆき」の優良種子生産に取り組み稲作生産振興に積極的に協力している。

(3) 真室川町野菜生産組合を常にリード

にらの新品種の導入検討、試験ほ場の設置、出荷方法の検討など常に先駆的に取り組み、市場の評価を知るため市場訪問などを繰り返し行い研鑽を重ねた。近年では、新規栽培者の育成につとめ、組合員数を 178 名（発足当時 20 名）まで拡大してきた。にら栽培については、にら部会員 67 名で 18ha 栽培され、川又氏は 1.7ha 栽培し総栽培面積の約 9% を占め、にら部会をリードしてきた。特に川又氏が組合役員になってからのにら生産額の伸びは川又氏のリーダーシップによる功績が大きく、にらを 1 億円産業まで発展させている。

(4) 後継者育成により地域貢献

農業研修生の受け入れは約 20 年の実績があり、後継者育成で地域貢献を果している。研修生の多くは研修終了後も川又氏を頼り、指導を仰いでいる。地域で意欲ある青年がいれば他の市町村の青年にも指導しており、近隣の青年をアルバイトで雇い入れることで、にら栽培を学ばせ地域にもどって就農した事例等が数多くあり、青年農業者の良き目標になっている。このようなことが、真室川町のにら栽培の担い手を育て、ひいては地域農業を活性化している。

3 今後の発展方向

川又氏の経営は、水稻+にら+和牛繁殖と真室川町では一般的な経営形態である。将来の構想は、水稻と和牛繁殖を現状のまま維持し、にらの栽培面積を現状の 1.7ha から 2.5ha に拡大する計画である。そして、国内でも有数のにら経営を目指している。